

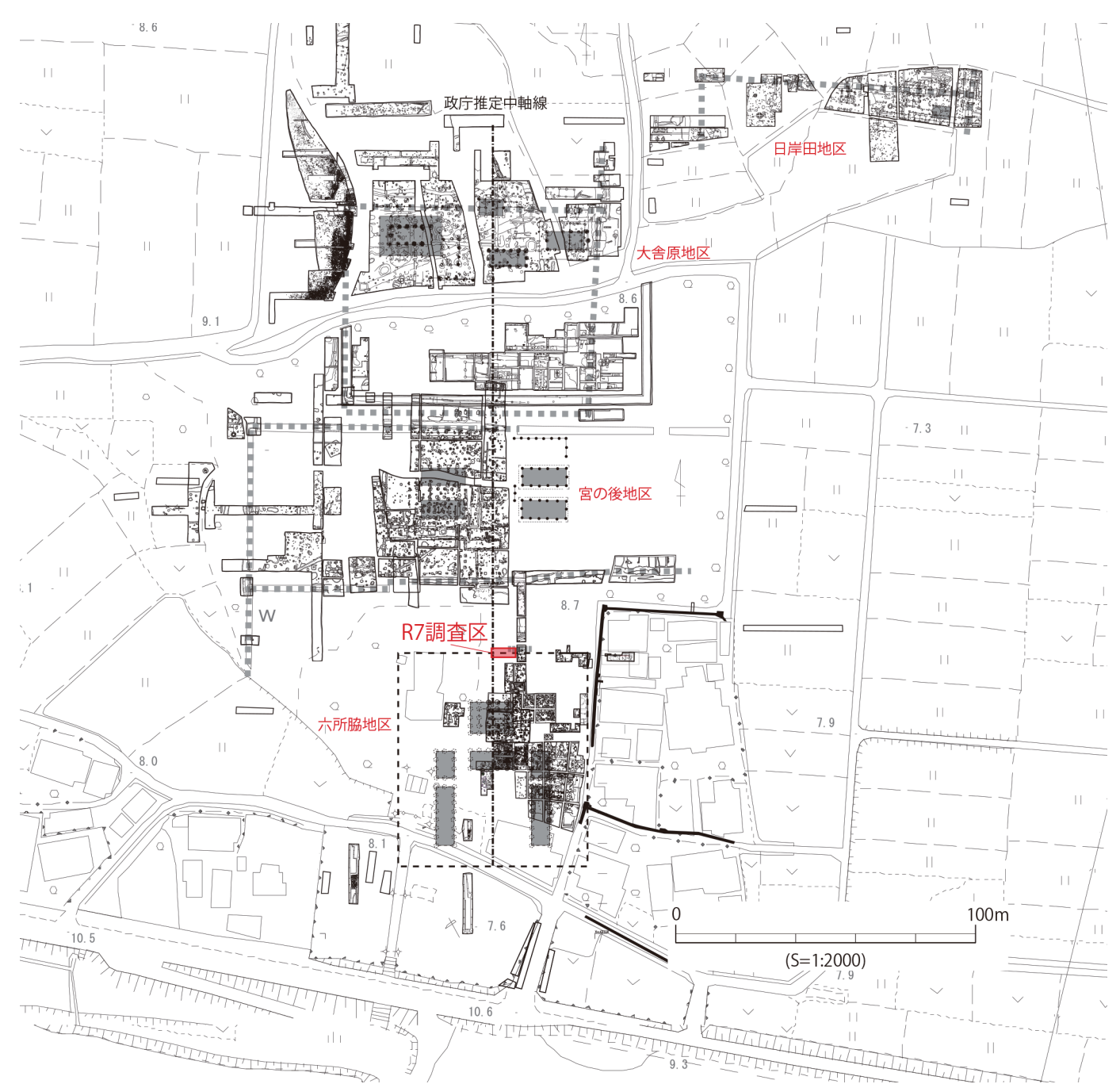
～ 風土記の丘地内発掘調査成果速報 ～

令和7年 11月 23日（日・祝）
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
TEL：0852-36-8608

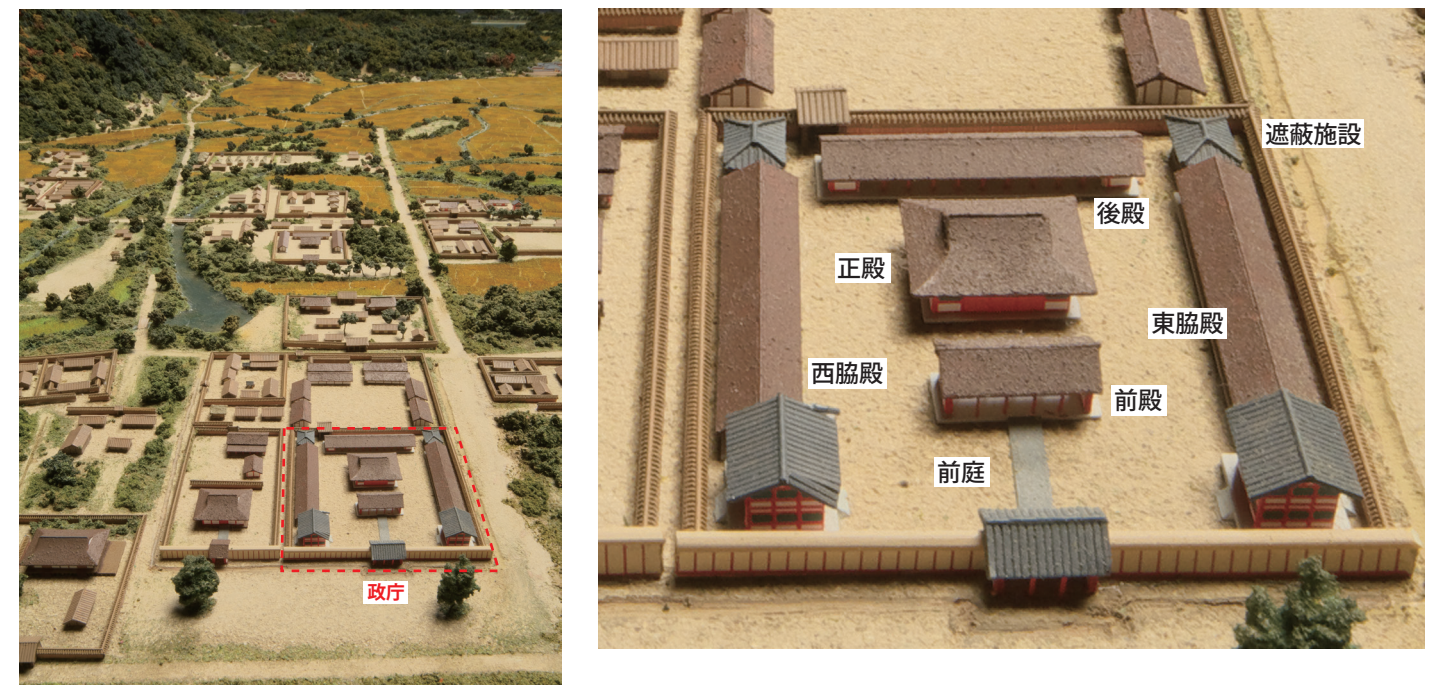
史跡出雲国府跡 現地説明会資料

出雲国府とは、出雲国を治めるためにつくられた古代（奈良～平安時代）の役所です。国府内には様々な施設が設けられていますが、その中でも政庁は、中央から派遣された国司が政務や儀式を執り行う国府の中心地域で、これまでに正殿・前殿・後殿・東脇殿などの大型の建物跡が見つっています。

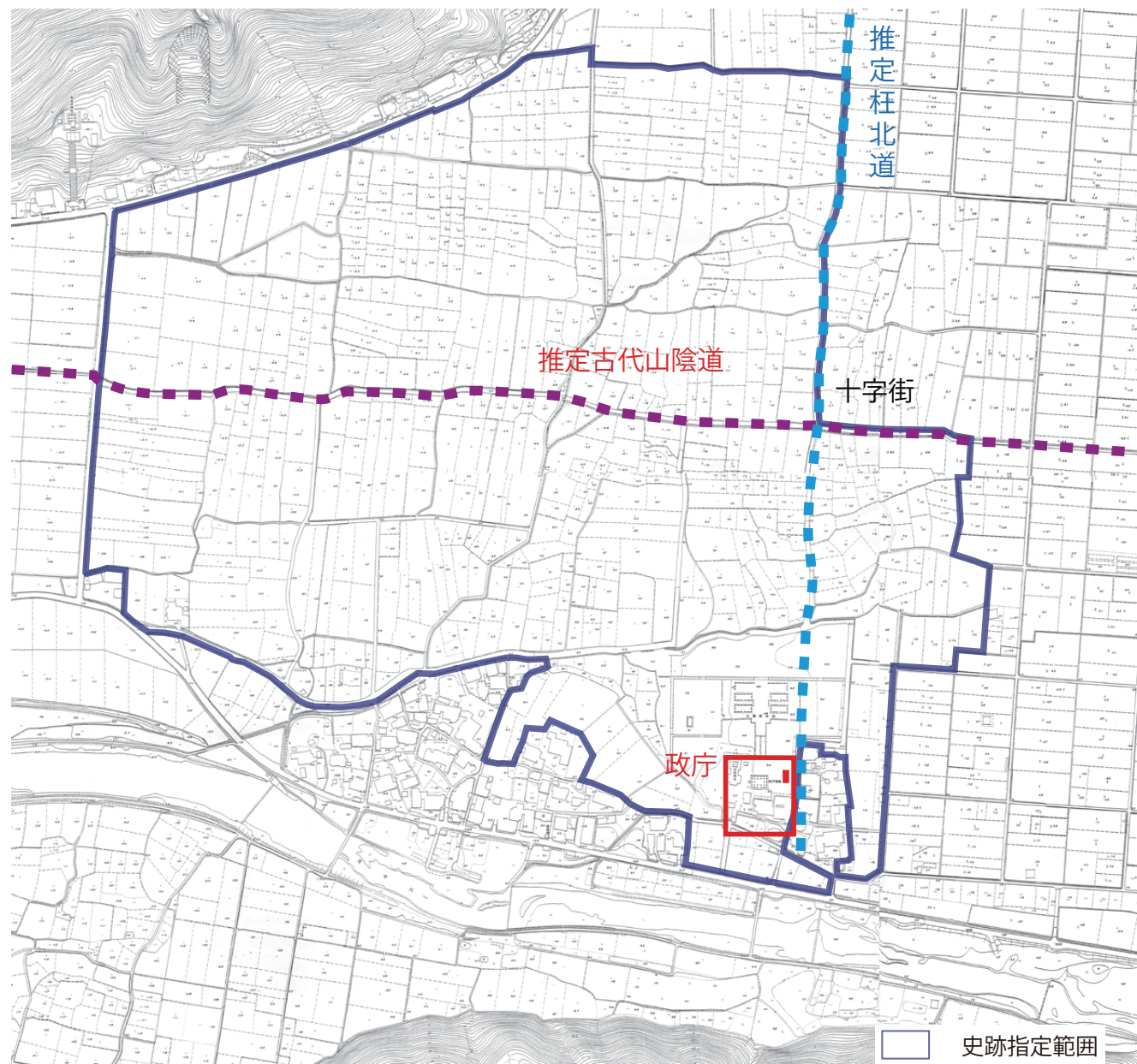
今年度の調査では、後殿の北側で9世紀中葉以降につくられた人工的なくぼ地を発見しました。このくぼ地は、政庁域の北の区画をまたいでつくられており、過去の調査で見つかった「95号溝」とつながると考えられます。また、くぼ地がつけられたのは後殿の廃絶後であることから、9世紀中葉以降に政庁域の施設を大きく変える大規模な改変がおこなわれていたと推測されます。その背景には、政庁域の儀礼や機能の変化など様々な要因が考えられます。



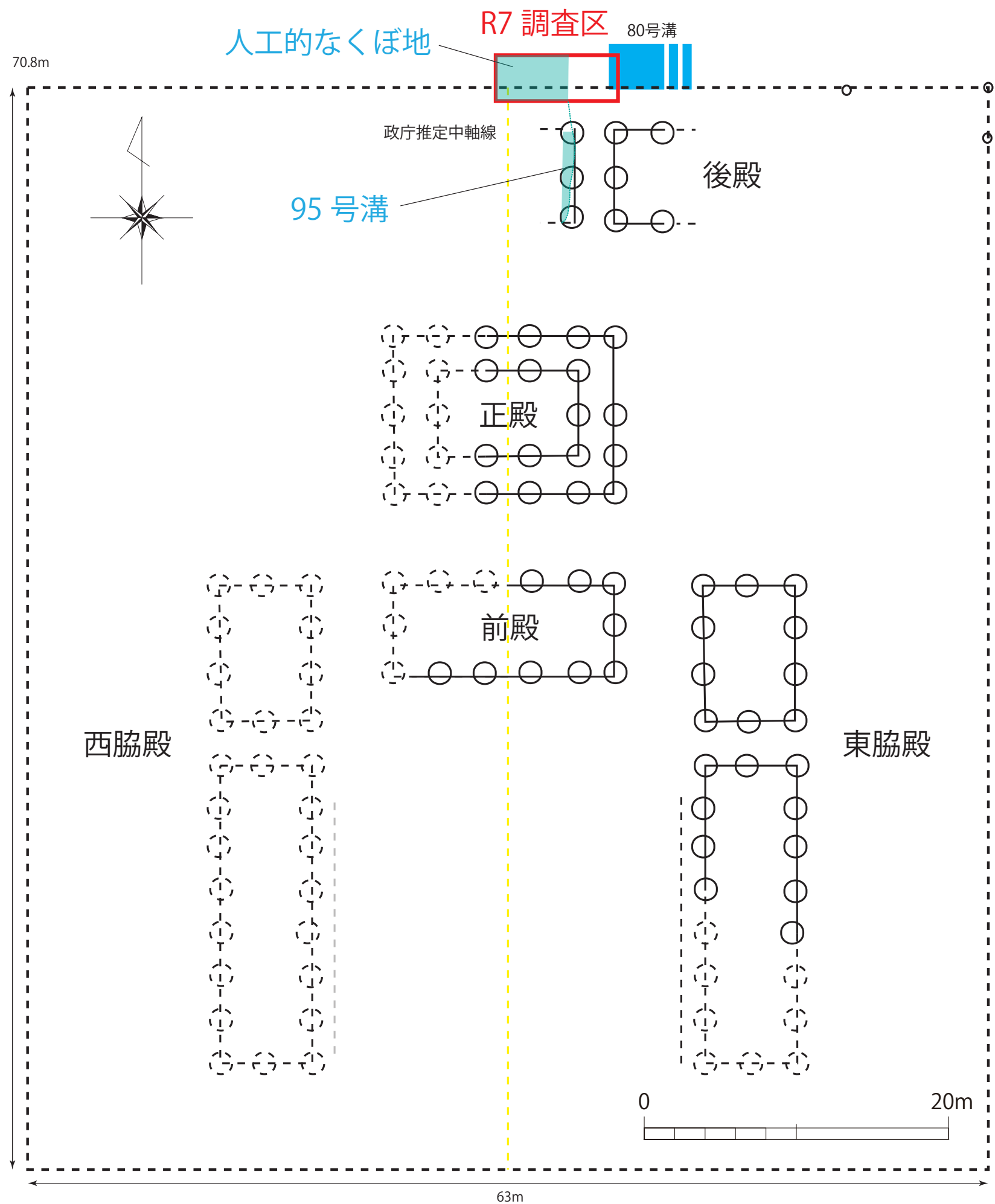
出雲国府内の地区配置図 (S=1:2000)



復元模型で見た出雲国府周辺の様子(左)と政庁(右)
〔島根県古代文化センター『出雲国府周辺の復元研究』2009年に加筆〕



史跡出雲国府跡と政庁域 (S=1:6000)



政庁域の復元模式図（未検出箇所は点線）とくぼ地・95号溝の位置図



令和7年度調査区全景（東から）

調査区内では、くぼ地のほかに土坑や溝、ピットなどを確認しました。くぼ地の東側は土坑によって壊されていました。



人工的なくぼ地（北東から）

土の堆積状況から、くぼ地内には水が溜まっていた可能性があります。中からは土師器や瓦が多く出土しました。